

漢文 杜甫『絶句』定期テスト対策問題 | 形式・押韻・現代語訳の頻出設問と解答

解答・解説

問1 五言絶句（ごごんぜっく）

〈解説〉一句が五字、全体が四句なので「五言絶句」。詩題の『絶句』は「形式の名をそのまま題にした」もので、特定の題をつけない作品によく見られる。

問2

- ・一句の字数 … 五（字）
- ・句数 … 四（句）

〈解説〉「五言」は一句が五字であること、「絶句」は四句から成ることを表す。

問3 然・年

〈解説〉「ゼン（然）」「ネン（年）」と、響きの似た音（-en の韻）でそろえてある。第一句末の「白」は押韻していない（五言詩は第一句末で韻を踏まないのが原則）。

問4 （例）偶数句の末字で押韻する。

〈解説〉五言詩では原則として偶数句末（この詩では第二句「然」・第四句「年」）で韻を踏む。七言詩は第一句末＋偶数句末が原則、というちがいでセットで覚える。

問5

- ・書き下し … 江碧にして鳥逾よ白く
- ・現代語訳 … （例）川は深いみどりで、（そのみどりを背景に）水鳥の白さはますますあざやかに見え。

〈解説〉返り点はなく上から順に読む。「碧」という濃い色を背景に置くことで、鳥の「白」がいつそう引き立つという色彩の対比を述べた句。

問6

- ・読み … いよいよ
- ・意味 … イ（ますます・いつそう）

〈解説〉「逾」は「愈」と同じで「いよいよ＝ますます」と読む副詞。川のみどりが濃いからこそ、鳥の白さが「ますます」白く見える、という関係をおさえる。

問7 ウ（蜀の成都）

〈解説〉この詩は、杜甫が戦乱を避けて蜀（しよく）の成都（せいと）に住んでいたころの作。「江」は成都を流れる錦江（きんこう）を指すとされる。

問8

- ・書き下し … 山青くして花然えんと欲す
- ・現代語訳 … （例）山は青々として、（その青を背景に）花は今にも燃え出しそうなほど赤くあざやかである。

〈解説〉「欲レ然」とレ点が付き、「然えんと→欲す」と下から返って読む。第一句と対になる、色彩の対比の句。

問9

・漢字 … 燃

・情景 … (例) 山の青さを背景に、花の赤い色が燃える炎のようにあざやかに咲いている情景。

〈解説〉「然」はここでは「燃」と同じ(もとは「然」が「もえる」の意味の字で、のちに火へんを付けた「燃」が作られた)。花の赤を炎にたとえている。

問10 イ(今にも～しそうだ)

〈解説〉「欲」は人が主語なら「～したい(願望)」だが、ここは花が主語なので「今にも～しそうだ」という状態を表す。「まさに～んとす(将・且)」に近い用法で、テスト頻出のひっかけポイント。

問11 対句(ついく)

対応の例 … 「江」と「山」(ほかに「碧」と「青」、「鳥」と「花」、「逾白」と「欲然」)

〈解説〉第一句と第二句は、語の組み立てが「江碧／鳥逾白」「山青／花欲然」とそろ対句。律詩でなくても対句は用いられる。一組答えればよい。

問12 碧(みどり)・白・青・紅(赤)

〈解説〉川のみどり、鳥の白、山の青、花の赤(燃えるような色)。四つの色を二句に詰めこんだ、絵画のようにあざやかな表現である。

問13

・書き下し … 今春看又過ぐ

・現代語訳 … (例) 今年の春も、見ているうちに、またむなしく過ぎてゆく。

〈解説〉返り点はなく上から順に読む。美しい春をながめながら、それをただ見送るしかない作者の姿が浮かぶ転句。

問14

・読み … みすみす

・意味 … イ(見ているうちに、なすすべもなく)

〈解説〉「看」は「みすみす」と読み、「目の前で見ていながら、どうにもできないまま」の意。読み問題として最頻出の一字。

問15 (例) 去年もおとしも故郷に帰れないまま春を見送り、今年「もまた」同じように春が過ぎてゆく、という、長い流浪の暮らしへの嘆きの思い。

〈解説〉「又」は「今年も繰り返された」ことを示す。一字で「帰れない年月の積み重なり」を表す、この詩の感情の要となる字。

問16

・書き下し … 何れの日か是れ帰年ならん

・現代語訳 … (例) いったいいつの日が、故郷へ帰れる年となるのだろうか。

〈解説〉「何れの日か」と問いかける疑問の句。返り点はなく上から順に読む。望郷の思いが直接あふれ出た結句である。

問17 ア（故郷へ帰ることのできる年）

〈解説〉「帰年」は「(故郷に) 帰る年」。まだ帰れていないからこそ「何れの日か (いつになったら)」と問うている。イの「帰り着いた年」では文意が通らない。

問18 ウ（疑問〈詠嘆をふくむ〉）

〈解説〉「何 (いづれの)」という疑問詞を用いて「いつの日が帰れる年なのか」と問う疑問形。答えを求めるといふより、「帰れる日はいつになるのか…」という嘆き（詠嘆）がこもる。

問19（例）前半二句は、成都の春のあざやかで美しい景色（叙景）を詠み、後半二句は、その春を見ながら故郷に帰れない作者の嘆き（心情）を詠んでいる。

〈解説〉「景→情」という漢詩の典型的な構成。美しい景色であればあるほど、帰れない悲しみが引き立つという効果（対照）まで言えると満点。

問20 イ

〈解説〉あざやかな春景色（前半）と、「いつ帰れるのか」という嘆き（後半）の対照で、望郷の思いを際立たせた詩。アは前半だけ、エは「年若い」が本文にないので不適。

問21 イ（安史の乱の戦乱を避けて、故郷を遠く離れた成都に身を寄せていた）

〈解説〉杜甫は安史の乱（755～763年）の戦乱で各地を流浪し、成都の草堂に身を寄せていた。この詩はそのころ（764年ごろ）の作とされ、「帰れない」嘆きの背景となっている。

問22

- ・時期 … イ（盛唐）
- ・呼び名 … 聖（詩聖）
- ・詩人 … 李白（りはく）

〈解説〉杜甫（712～770）は盛唐の詩人。誠実で重厚な詩風から「詩聖」と呼ばれ、「詩仙」李白とあわせて「李杜」と並称される（王維＝詩仏もセットで覚える）。

問23 イ（『春望』〈国破れて山河在り〉）

〈解説〉『春望』は安史の乱で荒れた長安を嘆いた杜甫の代表作。アの『春暁』は孟浩然、ウの『静夜思』は李白、エの『涼州詞』は王翰（おうかん）の作品である。

【補足・本文の異同について】この詩は『絶句二首』の二首目（其の二）にあたります。第一句の「逾」は、本によって「愈」と書くものもありますが、意味・読み（いよいよ）は同じです。テストでは教科書本文の表記に従って答えましょう。